

# X-point

## 電子サイン連携 設定ガイド

2026/1/30版



# はじめに

## ◆ 本書の目的

本書は、X-point とクラウドサイン・GMO サインを連携利用する為に必要なシステムの設定について説明しています。本書をよくお読み頂いた上で設定作業を行ってください。

## ◆ 対象とする読者

本書は「X-point」のシステム管理者を対象としています。システム管理者とは「X-point」を運用するにあたり必要な設定および基本データの作成、維持管理を行なう本システムの管理権限を持つユーザーを指します。

## ◆ 対応バージョン（2025/09/30 時点）

X-point	備考
X-point v3.6 以降	クラウドサイン連携、GMO サイン連携の設定を行うには、それぞれのライセンスが必要です。
電子サイン連携	

## ◆ 製品名について

本文中、「X-point Cloud」は「X-point」と表記しています。  
また、各製品の名称は対応バージョンを省略してある箇所もありますのでご了承ください。

## ◆ 商標について

本書の一部、または全部を著作権所有者の許諾なしに、商用目的の為に複製、配布することはできません。

X-point、エクスポイントの名称およびロゴは株式会社エイトレッドの商標または登録商標です。  
Microsoft、MS-DOS、Windows は米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標です。  
Macintosh、MacOS は Apple Computer,Inc.の米国およびその他の国における登録商標です。  
Adobe、Acrobat、Adobe Acrobat は Adobe Systems,Inc.の商標または登録商標です。  
ORACLE、Java、JavaScript は、Oracle Corporation 及びその子会社、関連会社の米国及びその他の国における登録商標です。  
デスクネット、desknet's は株式会社ネオジャパンの登録商標です。  
サイボウズ、Cybozu はサイボウズ株式会社の登録商標です。  
Google、Google ロゴ、GoogleApps は、GoogleInc.の登録商標または商標です。  
クラウドサインは弁護士ドットコム株式会社の登録商標です。  
GMO サインは GMO インターネットグループ株式会社の登録商標です。

その他、記載された会社名およびロゴ、製品名などは該当する会社の商標または登録商標です。  
本書では、©、®、(TM)の表示を省略しています。ご了承ください。

### ◆ 製作著作

©2025 株式会社エイトレッド

# 目次／索引

---

- はじめに
  - ◆ 本書の目的
  - ◆ 対象とする読者
  - ◆ 対応バージョン（2025/09/30 時点）
  - ◆ 製品名について
  - ◆ 商標について
- 1 電子サイン連携設定の概要
- 2 電子サイン連携設定の利用
  - 2.1 前提条件
  - 2.2 電子サイン連携設定の手順
    - 2.2.1 管理者サインイン
    - 2.2.2 電子サイン連携設定
    - 2.2.3 基本設定
    - 2.2.4 クラウドサイン連携設定
    - 2.2.5 GMO サイン連携設定
    - 2.2.6 ワークフロー連携設定
      - 補足：承認ルートの設定について
  - 2.3 事前準備
    - 2.3.1 設定を行う前に準備する情報
    - 2.3.2 連携する外部システム情報
    - 2.3.3 Webhook の設定
  - 2.4 電子サイン連携の基本設定
  - 2.5 連携する外部システムの設定
    - 2.5.1 クラウドサイン連携の設定
    - 2.5.2 GMO サイン連携の設定
  - 2.6 設定項目の保存
    - 2.6.1 設定項目を保存
    - 2.6.2 設定項目の更新

# 1 電子サイン連携設定の概要

---

X-point の運用環境において「電子サイン連携」を実施するために、X-point の基本情報の設定や電子サイン連携に必要な API のエンドポイントなどを設定します。

※X-point の概要については「管理者機能マニュアル」を参照してください。

## 2 電子サイン連携設定の利用

---

### ▼ 用語説明

用語	説明
電子サイン	本書では、クラウドサインと GMO サインのことを指します。
共通機能	X-point および AgileWorks での両方で利用できるサービスのことを指します。

### 2.1 前提条件

---

#### 1. 動作環境

「クラウドサイン」または「GMO サイン」のライセンスが必要となります。

#### 2. ブラウザ環境

X-point の環境がサポートされているブラウザを使用してください。

#### 3. X-point の連携可能なドメイン

電子サイン連携を設定する場合は、X-point のドメイン作成で作成したドメインコードを使用してください。

## 2.2 電子サイン連携設定の手順

### 2.2.1 管理者サインイン

共通機能メニューへ接続するために、管理者サインインを行う必要があります。URL 指定タブから接続先を指定します。

管理者サインイン画面の URL : <https://axuniblox.atledcloud.jp/login>

#### 手順1 接続

- 管理者サインイン画面（入力）

X-point タブから URL と X-point ドメインを指定します。

URL において、「https://」と「.atledcloud.jp」は入力済みとなるため、URL から「https://」と「.atledcloud.jp」を除いたものを入力してください。

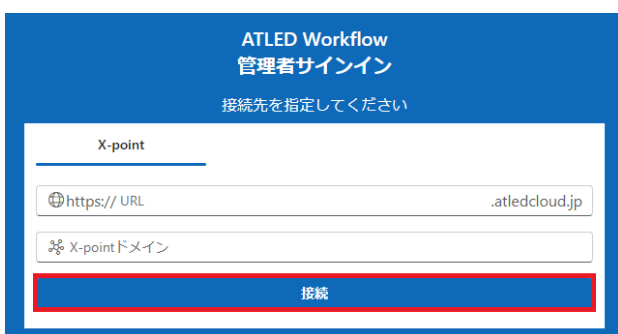
（例）「」であれば、「xxxxx」と入力してください。



The screenshot shows the 'ATLED Workflow 管理者サインイン' page. It has a blue header with the title and a subtitle '接続先を指定してください'. Below the header are three input fields: 'X-point', 'https:// URL .atledcloud.jp', and 'X-pointドメイン'. A blue '接続' button is at the bottom. Red boxes highlight the 'X-point' field, the 'URL' field, and the 'X-pointドメイン' field.

- 管理者サインイン画面（接続）

接続を選択します。



This screenshot is identical to the previous one, but the '接続' button at the bottom is highlighted with a red box.

#### 手順2 ログイン

- ログイン画面

ログイン画面では、ユーザーとパスワードを指定して、ログインを選択します。

ログインを押下すると、電子サイン連携設定の共通機能メニューへ遷移します。

※Google Workspace 連携、もしくは SAML 認証サービスを利用する設定になっている場合、未認証であれば連携先の認証ページに遷移します。認証済みであれば、電子サイン連携設定の共通機能メニューのページへ遷移します。

# X-point

user

password

**login**

- ユーザー  
指定したドメインの管理者ユーザーを指定します。  
※以下のいずれかの権限を保持しているユーザーでログイン可能です。
  - ドメイン管理権限
  - フォーム管理権限
  - マスタ管理権限
  - クエリ管理権限
  - 承認管理権限
- パスワード  
指定したユーザーのパスワードを指定します。
- 電子サイン連携設定の共通機能メニュー  
ログインが完了すると、電子サイン連携設定の共通機能メニューが表示されます。  
※このメニュー画面には、保有するライセンスによって異なるボタンが表示されます。



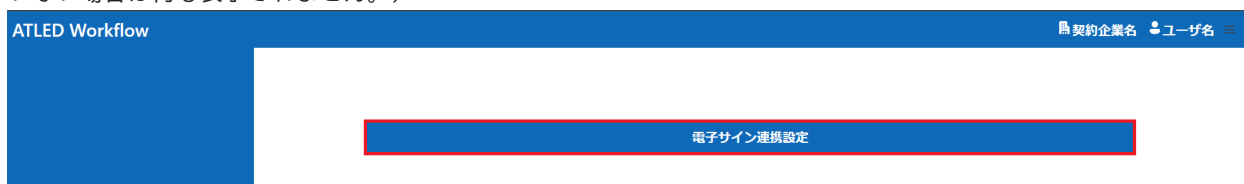
## 2.2.2 電子サイン連携設定

電子サイン連携を利用する場合は、電子サイン連携設定画面から各項目を指定する必要があります。  
電子サイン連携設定画面は「共通機能メニュー」>「電子サイン連携設定」を選択することで表示することができます。

- 共通機能メニュー画面  
共通機能メニューから電子サイン連携設定を選択します。

※この画面は管理者用の共通機能へアクセスするためのものです。 ※保有するライセンスおよび接続先の X-point に応じて表示される項目が変わります。

「電子サイン連携オプション」が有効な場合は、「電子サイン連携設定」が表示されます。（ライセンスを持っていない場合は何も表示されません。）



- 電子サイン連携設定画面

電子サイン連携設定画面には、基本設定、クラウドサイン設定、GMOサイン設定のタブが表示されます。タブを選択することで、表示内容が変わります。

※クラウドサイン設定、GMOサイン設定のタブはそれぞれのライセンスを持っている場合のみ表示されます。ライセンスを持っていない場合は表示されません。



The screenshot shows a web interface with three tabs at the top: '基本設定' (Basic Settings), 'クラウドサイン設定' (Cloud Sign Settings), and 'GMOサイン設定' (GMO Sign Settings). The '基本設定' tab is selected and highlighted in teal. Below the tabs, the 'ライセンス設定' (License Settings) section is visible, containing three input fields: 'ライセンス番号' (License Number) with the value 'licenseXP', 'アクセスキー' (Access Key) with the value 'accessKeyM3', and 'システムURL' (System URL) with the value 'https://sc-test-xpv3500.atledcloud.jp/xpoint/1'.

## 2.2.3 基本設定

基本設定タブを選択することで、基本設定画面に遷移します。

基本設定画面では、X-point の Webhook、WebAPI の設定、メールの各種項目などを入力します。

- 基本設定画面



The screenshot shows the '基本設定' (Basic Settings) tab selected. Below the tabs, the 'ライセンス設定' (License Settings) section is visible, containing three input fields: 'ライセンス番号' (License Number) with the value 'licenseXP', 'アクセスキー' (Access Key) with the value 'accessKeyM3', and 'システムURL' (System URL) with the value 'https://sc-test-xpv3500.atledcloud.jp/xpoint/1'. Below this, the 'X-pointの設定' (X-point Settings) section is visible, featuring an '追加' (Add) button and three input fields: 'ドメインコード' (Domain Code) with the value 'd001', 'ユーザーコード' (User Code) with the value 'u0001', and 'トークンコード' (Token Code) with the value 'B031ZN4dMF7cp5DGybTtL4Y=gb&GfRpWRGgE4D'.

電子サイン連携を行うにあたって、X-point の接続設定やアクセスキー、メールの設定などは必須項目となります。具体的な入力内容については「2.4.電子サイン連携の基本設定」で説明します。

## 2.2.4 クラウドサイン連携設定

クラウドサイン連携はクラウドサインのライセンスが有効な場合に、画面上部タブを押下することで設定画面が表示され、設定項目の入力が可能となります。

※クラウドサインのライセンスが無効な場合は、クラウドサインタブは表示されません。

- クラウドサイン連携設定画面

基本設定      **クラウドサイン設定**      GMOサイン設定

クラウドサインのWeb API クライアントID設定

デフォルトID  
IDを入力してください

チームごとのID (詳細設定)  
追加

チームID (チームIDを入力してください)      クライアントID (IDを入力してください)

APIエンドポイント設定 デフォルト値設定      デフォルト値設定 (sandbox)

アクセストークン取得  
https://api-sandbox.cloudsign.jp/token

書類の作成  
https://api-sandbox.cloudsign.jp/documents

クラウドサイン連携設定画面では、WebAPI を利用するために必要なエンドポイントやメールの設定を行います。

## 2.2.5 GMO サイン連携設定

GMO サイン連携は GMO サインのライセンスが有効な場合に、画面上部タブを押下することで設定画面が表示され、設定項目の入力が可能となります。

※GMO サインのライセンスが無効な場合は、GMO サインタブは表示されません。

- GMO サイン連携設定画面

基本設定      クラウドサイン設定      **GMOサイン設定**

GMOサイン設定

GMOサインの組織ID  
GMOサインの組織IDを入力してください

GMOサインのシークレットキー  
GMOサインのシークレットキーを入力してください

APIエンドポイント設定 デフォルト値設定

アクセストークン生成  
https://api2.gmosign.com/agree-api/v0/api/accesstoken/generate

GMO サイン連携設定画面では、GMO にアクセスするための ID やキー、WebAPI を利用するために必要なエンドポイントの設定を行います。

## 2.2.6 ワークフロー連携設定

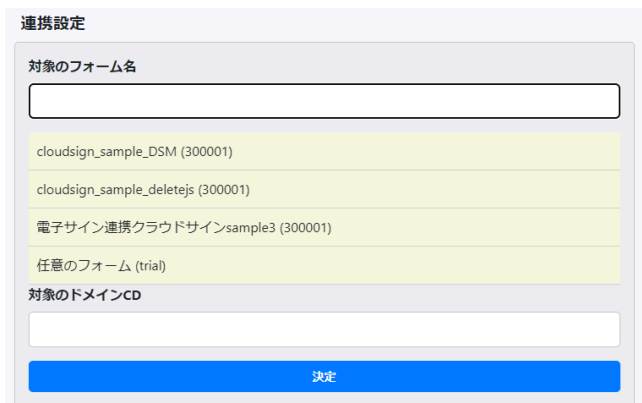
クラウドサインタブ、GMO サインタブにある「ワークフロー連携設定」項目から「連携設定」ボタンを押下することで、X-point のフォームと電子サイン書類を連携することが可能です。

ワークフロー連携設定では、電子契約を開始するタイミングを特定の承認ステップに設定できるほか、電子契約の結果により X-point 書類の承認や差し戻しが可能になります。また、X-point 書類に PDF を添付する、X-point 書類のフィールドに URL を共有するなど可能になります。

「対象のフォーム名」と「対象のドメイン CD」欄に設定を行うフォームを入力し、「決定」ボタンを押下することで連携設定項目を表示します。  
このとき、ワークフロー連携が設定されているフォームが指定された場合は登録済の情報を表示します。



すでにワークフロー連携設定が登録されている場合は、表示されている候補の中から登録済のフォームを選んで入力することも可能です。括弧内はドメイン CD を表しています。



「電子サイン連携タイミング」の項目では、電子契約を開始するタイミングをデフォルトの承認完了のほか、書類が特定ステップに達した時点で設定できます。電子契約連携タイミングを設定していないフォームは「承認完了したとき」の扱いとなります。

特定ステップを条件とする場合、ステップ場号には、例えばステップ 5 ならば「5」と数値でご入力ください。承認完了を選んでいる場合には「ステップ番号」欄は出現しません。なお、当該ステップがスキップされる場合には条件を満たしませんのでご注意ください。



また、特定の回付ルールや、特定のフィールドに入っている値をみて、電子サイン連携を行うか設定できます。「ルートコード」の欄に回付ルールコードを記入することで、記入した回付ルールで回付したときのみ連携を行うようになります。

「対象フィールドの id」「対象フィールドの値」に値を入れることで、指定のフィールドの値が、指定の値の時のみ連携を行うようになります。

※グループ設定をしているフィールドに対して設定しても連携条件として設定が適用されません。

■電子契約連携タイミング

条件：

承認完了したとき  特定ステップに達したとき

ルートコード

対象フィールドのid

対象フィールドの値

「電子契約完了時のワークフロー操作」の項目では、電子契約の完了を契機として X-point 書類のワークフロー操作を行うように設定することが可能です。  
この項目は、特定ステップを電子契約タイミングとしている場合に限り設定可能な項目になります。

「契約締結時に承認する」「契約不成立時に差し戻す」にそれぞれチェックした場合、基本設定> X-point の設定> ユーザコードで指定したユーザ扱いで、X-point 書類の承認や差し戻しを実行します。そのため、当該書類の承認者として当該ユーザが指定されている必要があります。  
※クラウドサイン連携時のみ「契約不成立時に差し戻す」設定を行うことが可能です。

差し戻しを選択しているとき、差し戻しステップは、例えばステップ 1 ならば「1」と数値でご入力ください。  
「契約不成立時に差し戻す」をチェックしていない場合には「差し戻しステップ番号」欄は出現しません。

■電子契約完了時のワークフロー操作

契約締結時に承認する

契約不成立時に差し戻す

差し戻しステップ番号

また電子契約完了時のワークフロー操作を実施するためには、  
『[2.3.3.Webhook の設定](#)』の通り電子サイン側の Webhook 設定を有効にさせていただく必要があります。

「マッピング設定」の項目では、X-point に反映したい項目を設定することができます。  
この項目は、電子契約完了時のワークフロー操作を設定している場合に限り設定可能な項目になります。

「マッピング設定を追加」ボタンを押下すると、新しい設定欄を追加することが可能です。  
また、設定欄は「削除」ボタンを押下することで削除いただけます。

「電子サイン側の連携項目」はプルダウン形式で選択できるようになっております。  
選んだ項目によって設定欄の表示が一部変化します。

「ワークフロー側の対応するページ」欄は、単数フォームでは「1」を、複数枚フォームでは対応するページを「2」など数値でご入力ください。

「ワークフロー側の対応するフィールド ID」欄には、フォームフィールド ID をご入力ください。  
また、テキストフィールドなど文字列を入力できるフィールドを指定してください。

PDF ファイルは添付ファイルとして書類に添付されます。

■マッピング設定

マッピング設定を追加

電子サイン側の連携項目  
電子サイン書類の契約書類URL

ワークフロー側の対応するページ

ワークフロー側の対応するフィールドID

削除

電子サイン側の連携項目  
完了した書類のPDF

削除

一連の設定が完了した場合、「保存」ボタンを押下することで設定が反映されます。  
「閉じる」ボタン、ないしモーダル外を押下した場合は設定を中止してモーダルが閉じます。



#### 【ワークフロー連携設定の削除】

すでにワークフロー連携設定されているフォームを選択して「決定」ボタンを押下した場合、「削除」ボタンが出現します。新しいフォームの場合は「削除」ボタンは出現しません。

testField

削除 閉じる 保存

「削除」ボタンを押下すると、上方に「削除を実行しますか？」という警告メッセージが表示されます。

axuniblox.atledcloud.jp の内容

削除を実行しますか？

OK キャンセル

「OK」ボタンを押下すると削除が実行され、「連携設定を削除しました」という通知が表示されます。  
「キャンセル」を選択した場合は、削除は実行されません。

連携設定を削除しました

## 補足：承認ルートの設定について

ワークフロー連携設定により「契約締結時に承認する」「契約不成立時に差し戻す」を有効にした場合、電子サイン連携設定「基本設定＞X-pointの設定＞ユーザコード」で指定したユーザ（以下、連携ユーザ）が承認者となるように、X-pointの承認ルートを設定していただく必要があります。

承認者指定ステップで連携ユーザを直接指定するほか、連携ユーザが所属するユーザグループを作成し、そのグループが未定義ステップの承認候補者となるように設定いただくと、より柔軟な運用が可能になります。

### 【運用例】

電子サイン連携タイミングをSTEP3に設定し、STEP3を未定義ステップに設定する。未定義ステップの承認候補者には連携ユーザが所属するユーザグループを指定しておく。また、未定義ステップの該当者なしの場合は、当該STEPをスキップする設定にする。

書類がSTEP3に到達したとき、未定義ステップに連携ユーザを指定していれば、STEP3に回付されたタイミングで電子サイン連携が開始される。

一方、STEP3の未定義ステップに承認者を指定しなかった場合、STEP3がスキップされることにより電子サイン連携を実施せずに書類を回付する。

これにより、STEP3以降で差し戻しが発生したときに、STEP3の承認者を指定する／しないにより、電子サイン連携の有無を選択可能になる。

またSTEP3にはユーザグループが指定されているため、連携ユーザに変更があった場合にも、承認ルートへの影響を抑えることができる。

電子サイン連携ルート (ER001) <span style="float: right;">更新: 2024/08/30 15:12:32</span>					
参加		共通承認ルート参照なし			
条件					
名称	申請STEP	STEP 1	STEP 2	STEP 3	回覧
該当者	△ 全ユーザ利用可能	△ 山田 太郎(a001)	△ 藤田 一郎(a002)	未定義ステップ	該当者は設定されていません
権限	◎ 閲覧 ◎ 添付	◎ 閲覧 ◎ 編集 ◎ 却下 ◎ 差し戻し ◎ 添付	◎ 閲覧 ◎ 編集 ◎ 却下 ◎ 差し戻し ◎ 添付	◎ 閲覧 ◎ 編集 ◎ 却下 ◎ 差し戻し ◎ 添付	
自動昇進	-	-	-	-	
残管理	-	-	-	-	
自動結票	-	-	-	-	
ステップ承認条件	AND	AND	AND	AND	
該当者なしの場合	スキップする	スキップする	スキップする	スキップする	

## 2.3 事前準備

### 2.3.1 設定を行う前に準備する情報

- X-point 認証トークン  
認証を行うにはX-point 認証トークンが必要になります。

【生成方法・確認方法】

X-point 管理サイトの「ドメイン」を選択します。  
ドメイン管理画面の右端にある「認証情報」を押下します。

#### ▼ 管理サイトのドメイン管理画面



「認証情報」を押下すると、以下の画面に遷移します。  
「API トークン」の「X-point 認証トークンを生成する」を押下すると、新しい API トークンが生成されます。  
電子サイン連携設定では、こちらの API トークンを利用します。

※既に API トークンが生成されている場合は既存の API トークンをご利用頂けます。

#### ▼ 認証情報画面



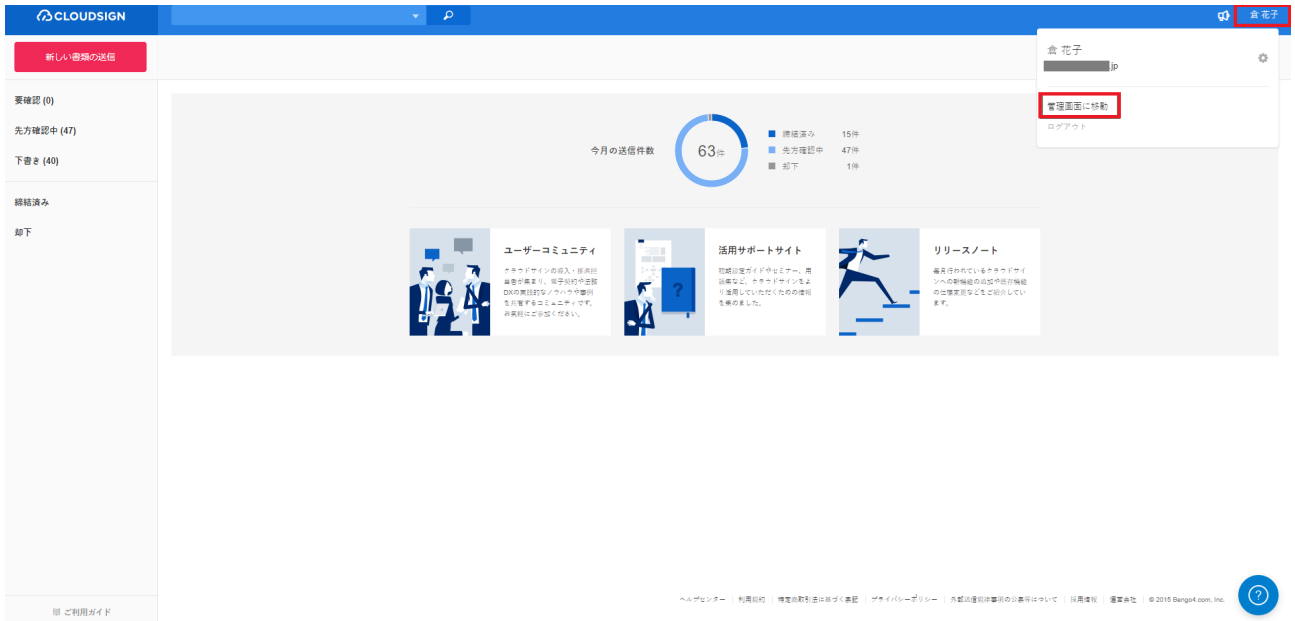
## 2.3.2 連携する外部システム情報

- クラウドサイン  
クラウドサインを利用する場合はクラウドサインのライセンスを取得してください。  
クライアント ID も必要になります。

【生成方法・確認方法】

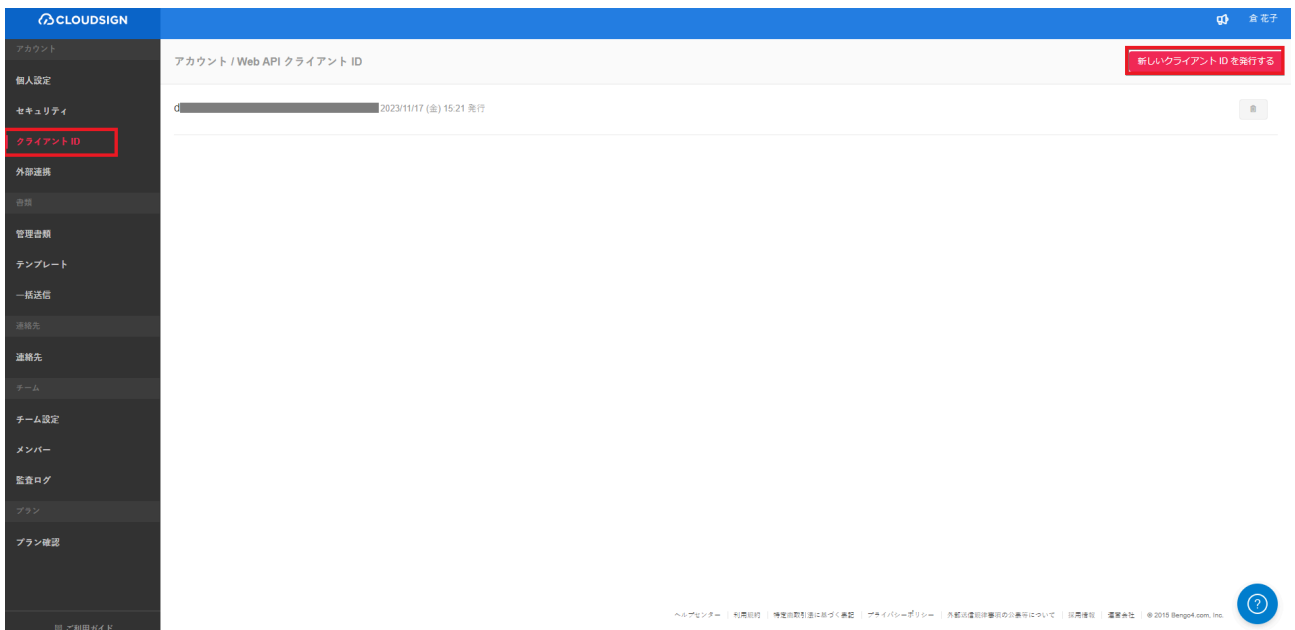
クラウドサインのページにログインします。（クラウドサインのテナントオーナー・または管理者アカウントを前提としております）

右上にユーザー名が表示されていますので、ユーザー名を押下し、「管理画面に移動」を押下します。



左側のメニューから「クライアント ID」を押下する。  
 右上の「新しいクライアント ID を発行する」を押下する。  
 電子サイン連携設定では、生成されたクライアント ID を利用します。

※既に Web API クライアント ID が生成されている場合は既存の Web API クライアント ID をご利用頂けます。



- GMO サイン  
 GMO サインを利用する場合は GMO サインのライセンスを取得してください。  
 組織 ID やシークレットキーも必要になります。

【組織 ID の確認方法】

GMO サインのページにログインします。(GMO サインの管理者アカウントを前提としております)  
 右上にユーザー名が表示されていますので、ユーザー名を押下します。

The screenshot shows the main dashboard of the GMOサイン system. On the left is a navigation menu with options like '契約を締結', 'TOP', '文書管理', and '電子署名フォーム'. The main area contains several widgets: a list of notices (お知らせ) with dates and titles, three charts showing '署名ステータス' (Signature Status), '送信数' (Number of Sent Documents), and '文書保管枚' (Number of Documents Stored), and a table for '要対応文書' (Documents Requiring Action). The table is currently empty, showing '該当する文書がありません。' (No documents match).

ユーザー情報に組織 ID が表示されます。  
電子サイン連携設定では、こちらに記載されている組織 ID を利用します。

The screenshot shows the 'ユーザー登録情報' (User Registration Information) page. It displays user details in a form-like layout: '会社名' (Company Name), '組織ID' (Organization ID), '所属' (Department), '担当者名' (Responsible Name), 'ロール' (Role) set to '管理者' (Administrator), 'メールアドレス' (Email Address), 'メール認証' (Email Authentication) status, '文書自動保管' (Automatic Document Storage) checkbox, and '備考' (Remarks). Below this is a '二要素認証' (Two-Factor Authentication) section with a '有効化' (Enable) button and a status indicator 'ステータス | 無効 有効化'.

【シークレットキーの確認方法】  
シークレットキーは、GMO サインのページから確認することができませんので、GMO サインまでお問い合わせください。

※GMO サインのご利用契約時に取得している可能性があります。

## 2.3.3 Webhook の設定

『2.2.6.ワークフロー連携設定』で「電子契約完了時のワークフロー操作」を行う場合に必要になります。  
X-point 書類のワークフロー操作を必要としない場合にはご設定いただく必要はありません。

### ＜クラウドサイン＞

クラウドサインのページにログインしたあと、「管理画面＞チーム設定＞ Webhook を追加」を押下。  
URL 欄に下記の URL を入力し、「保存」ボタンを押下します。

[「https://axuniblox-api.atledcloud.jp/esign/incomingwebhook/CS/」](https://axuniblox-api.atledcloud.jp/esign/incomingwebhook/CS/)

Webhookの追加

URL 必須

説明 任意

通知する条件 必須

- 締結時
- 取り消し・却下時
- メール不達時

< GMO サイン >

ご利用の GMO サイン担当宛てに、Webhook 利用開始の旨をご相談ください。  
Webhook 送信先は下記の URL となるようにご設定ください。

[「https://axuniblox-api.atledcloud.jp/esign/incomingwebhook/GMO/」](https://axuniblox-api.atledcloud.jp/esign/incomingwebhook/GMO/)

## 2.4 電子サイン連携の基本設定

### 1. ライセンス設定

- ライセンス番号
- アクセスキー
- システム URL

上記の 3 項目を指定します。

#### ▼ 基本設定画面

### ライセンス設定

ライセンス番号

アクセスキー

システムURL

#### ▼ 設定項目

- ライセンス番号:ログイン時に設定される X-point のライセンス番号が表示されます。（編集不可項目）  
X-point における Webhook 送信先の設定で利用します。  
なお、ライセンス番号はシステム情報一覧画面で確認することができます。

【システム情報一覧画面でライセンス番号を確認する場合】

X-point 管理者サイト/システム/システム情報/システム情報一覧/X-point 情報/ライセンス番号

- アクセスキー:任意のアクセスキーを指定します。（必須項目）  
X-point における Webhook 送信先の設定で利用します。
- システム URL:利用している製品の URL が表示されます。（編集不可項目）

（例）「[https://{FQDN}/xpoint/](https://sc-test-xpv3500.atledcloud.jp/xpoint/1)」

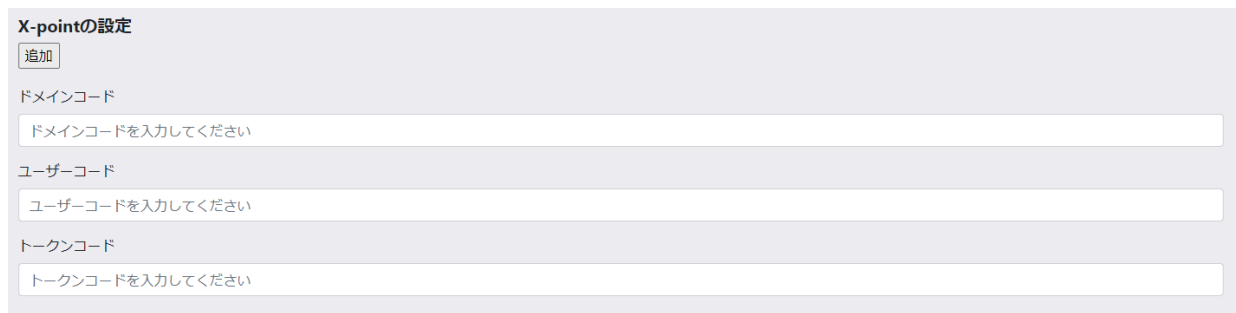
### 2. XP の設定項目の入力

- ドメインコード
- ユーザコード
- トークンコード

上記の 3 項目を指定します。

※複数ドメインを登録したい場合は、「追加」を押下してください。「追加」を押下すると、項目「XP の設定」に新しい入力欄が追加されます。最大ドメイン登録数は 10 個となります。ドメインコード、ユーザコード、トークンコードの入力欄が最大値に達すると、「追加」が表示されなくなります。

#### ▼ X-point の設定画面（単一ドメインの場合）



#### ▼ 設定項目

- ドメインコード:X-point で作成したドメインのドメインコードを指定します。（必須項目）
- ユーザコード:上記ドメインの管理者のユーザコードを指定します。（必須項目）  
指定したユーザコードは電子サイン連携で、連携先情報を認証するために使用されます。

ユーザコードが設定されていない場合は、X-point の管理サイト画面からユーザコードを設定してください。X-point の WebAPI を利用する際に必要となります。  
ユーザコードの設定方法は「管理者機能マニュアル」をご参照下さい。

『[2.2.6. ワークフロー連携設定](#)』のワークフロー連携設定を行う場合、書類の承認者となりうるユーザを設定してください。

- トークンコード:X-point の管理サイトから発行した API トークンを指定します。（必須項目）  
[2.3.事前準備](#)でご準備頂いた X-point 認証トークン（API トークン）を指定してください。

#### ▼ X-point の設定画面（複数ドメインの場合）

登録したいドメインの個数分、「追加」を押下します。

複数の入力欄がある場合、「削除」が表示されます。ドメインコード、ユーザコード、トークンコードの下部にある「削除」を押下すると、入力欄を削除することができます。

#### 注意事項

ドメインコード、ユーザコード、トークンコードが入力済みの状態でも削除されてしまいます。

### X-pointの設定

ドメインコード

ユーザーコード

トークンコード

ドメインコード

ユーザーコード

トークンコード

#### ▼ 設定項目

- ドメインコード:X-point で作成したドメインのドメインコードを指定します。(必須項目)  
複数ドメインを登録する場合、異なるドメインコードを入力してください。
- ユーザコード:上記ドメインの管理者のユーザコードを指定します。(必須項目)  
ユーザコードが設定されていない場合は、X-point の管理サイト画面からユーザコードを設定してください。  
X-point の WebAPI を利用する際に必要となります。  
ユーザコードの設定方法は「管理者機能マニュアル」をご参照下さい。
- 『2.2.6. ワークフロー連携設定』のワークフロー連携設定を行う場合、書類の承認者となりうるユーザを設定してください。
- トークンコード:X-point の管理サイトから発行した API トークンを指定します。(必須項目) 【guide-restapi-doc.pdf】 p6 参照

### 3. メール設定

このメール設定は電子サインサービスとの連携処置でエラーが発生した場合に管理者宛に通知を行うためのものです。

この管理者向けエラー通知メール送信のためにエイトレッド管理の標準メールサーバーもしくはお客様管理のSMTP メールサーバーが必要となります。

メール設定の際、標準メールサーバーをご利用の場合は「標準メールサーバー」に、お客様管理のSMTP メールサーバーを利用する場合は「カスタムメールサーバー」にチェックを入れます。

## メールの設定

標準メールサーバー カスタムメールサーバー

「標準メールサーバー」にチェックを入れている場合入力欄が以下のように表示されます。

メールの設定 テストメール送信

標準メールサーバー  カスタムメールサーバー

申請者メールアドレス宛にもエラーメールを送信する

エラーメールのTOアドレス  
エラーメールのTOアドレスを入力してください

エラーメールのCCアドレス  
エラーメールのCCアドレスを入力してください

メールのFROMアドレス  
noreply@atledcloud.jp

エラーメール本文に記載するURL  
エラーメール本文に記載するURLを入力してください

- エラーメールの TO アドレス
- エラーメールの CC アドレス
- エラーメール本文に記載する URL

標準メールサーバを利用の際は上記の項目を入力します。

#### ▼ 設定項目

- エラーメールの TO アドレス(必須項目)  
エラーメールの送信先アドレス (TO アドレス) を指定します。  
電子サイン連携でエラーが発生した場合、エラーメールが送信されます。
- エラーメールの CC アドレス  
エラーメールの共有先アドレス (CC アドレス) を指定します。  
電子サイン連携でエラーが発生した場合、エラーメールが共有されます。
- メール の FROM アドレス (固定値)  
メールを送信するアドレス (FROM アドレス) が表示されます。  
標準メールサーバでエラーメールを送信する際のアドレスとなります。
- エラーメール本文に記載する URL (必須項目)  
エラーメール本文に記載する URL を指定します。

(例) [https://{ドメイン}.atled.jp/](https://ドメイン.atled.jp/)

「カスタムメールサーバー」にチェックを入れている場合、入力欄が以下のように表示されます。

**メールの設定** テストメール送信

標準メールサーバー
 カスタムメールサーバー  
申請者メールアドレス宛にもエラーメールを送信する

SMTPサーバーのホスト

SMTPサーバーのホストを入力してください

SMTPサーバーのポート

SMTPサーバーのポートを入力してください

SMTPサーバーとクライアント間の通信暗号化

なし

SMTPサーバー認証方法

なし

SMTPサーバー認証時のID

SMTPサーバー認証時のIDを入力してください

SMTPサーバー認証時のパスワード

SMTPサーバー認証時のパスワードを入力してください

エラーメールのTOアドレス

エラーメールのTOアドレスを入力してください

エラーメールのCCアドレス

エラーメールのCCアドレスを入力してください

メールのFROMアドレス

メールのFROMアドレスを入力してください

エラーメール本文に記載するURL

エラーメール本文に記載するURLを入力してください

- SMTP サーバーのホスト
  - SMTP サーバーのポート
  - SMTP サーバーとクライアント間の通信暗号化方式
  - SMTP サーバーの認証方法
  - SMTP サーバーの認証時の ID
  - SMTP サーバーの認証時のパスワード
  - エラーメールの TO アドレス
  - エラーメールの CC アドレス
  - メール の FROM アドレス
  - エラーメール本文に記載する URL
- 上記の項目を入力します。

#### ▼ 設定項目

- SMTP サーバーのホスト（必須項目）  
SMTP サーバーのホスト名を指定します。
- SMTP サーバーのポート（必須項目）  
SMTP サーバーのポート番号を指定します。
- SMTP サーバーとクライアント間の通信暗号化方式（必須項目）  
SMTP サーバーとクライアント間の通信暗号化方式を指定します。  
ドロップダウンリストから通信暗号化方式を選択してください。

設定可能な暗号化方式：なし / STARTTLS / SSL

SMTPサーバーとクライアント間の通信暗号化

なし

なし

STARTTLS

SSL

- SMTP サーバー認証方法（必須項目）  
SMTP サーバーの認証方法を指定します。  
ドロップダウンリストから通信暗号化方式を選択してください。

設定可能な認証方法：なし/パスワード認証

SMTPサーバー認証方法

なし	▼
なし	
パスワード認証	

- SMTP サーバー認証時の ID（パスワード認証を行う場合に必須項目）  
SMTP サーバーの認証時の ID を指定します。
- SMTP サーバー認証時のパスワード（パスワード認証を行う場合に必須項目）  
SMTP サーバーの認証時のパスワードを指定します。
- エラーメールの TO アドレス（必須項目）  
エラーメールの送信先アドレス（TO アドレス）を指定します。  
電子サイン連携でエラーが発生した場合、エラーメールが送信されます。
- エラーメールの CC アドレス  
エラーメールの共有先アドレス（CC アドレス）を指定します。  
電子サイン連携でエラーが発生した場合、エラーメールが共有されます。
- メールの FROM アドレス（必須項目）  
メールを送信するアドレス（FROM アドレス）を指定します。  
エラーメールを送信する側のアドレスとなります。
- エラーメール本文に記載する URL（必須項目）  
エラーメール本文に記載する URL を指定します。

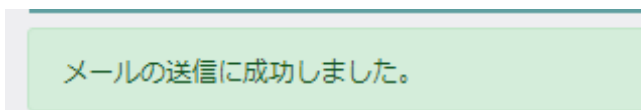
（例）[https://{ドメイン}.atled.jp/](https://ドメイン.atled.jp/)

#### ▼ テストメール送信

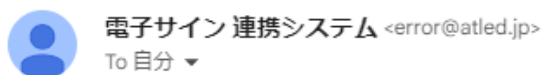
「テストメール送信」のボタンを押下するとメールの設定に入力している内容を参照し、「エラーメールの TO アドレス」に入力しているメールアドレス宛に接続確認メールを送信します。



メールの送信に成功すると設定画面上部にメッセージが表示されます。



接続確認メールは「メールの FROM アドレス」に入力しているメールアドレスから送信されます。



-----  
電子サイン連携接続確認通知メール  
-----

電子サイン連携のメール設定確認のメールです。  
このメールへの返信は不要です。

[送信日時] 2024/04/03 11:59

メールの送信に失敗すると設定画面上部にエラーメッセージが表示されます。

- ・入力している値に問題がある場合

テストメール送信エラー：[基本設定]エラーメールのTOアドレスは値が未設定です

- ・それ以外のエラーでメールの送信処理に失敗した場合

テストメール送信エラー：メール送信処理に失敗しました。

#### ▼ エラー通知メール送信先設定

「申請者メールアドレス宛にもエラーメールを送信する」のチェックボックスにチェックをいれると、電子サイン連携時にエラーが発生した際、「エラーメールの TO アドレス」宛だけでなく、フォームに入力した申請者のメールアドレス宛にもエラー通知メールを送信します。

### メールの設定

テストメール送信

標準メールサーバー カスタムメールサーバー

申請者メールアドレス宛にもエラーメールを送信する

## 2.5 連携する外部システムの設定

---

### 2.5.1 クラウドサイン連携の設定

#### 1. 前提条件

クラウドサインのライセンスがあること。

クラウドサイン設定用の API エンドポイントはクラウドサインの WebAPI マニュアルを参照してください。

#### 2. API エンドポイントの設定

- クラウドサインの Web API クライアント ID (デフォルト値/任意の発行者を指定)
- アクセストークン取得
- 書類の作成
- 添付資料の追加
- 書類情報の取得
- 宛先の追加
- 共有先の追加
- 書類の送信
- 埋め込み情報の登録

上記の 9 項目を指定します。

▼ API エンドポイントの設定画面

## クラウドサインのWeb API クライアントID設定

デフォルト値

IDを入力してください

任意の発行者を指定

追加

短縮コード adots

クライアントID bddcffe6-72bf-43fc-9117-2722

### APIエンドポイント設定

デフォルト値設定

デフォルト値設定(Sandbox)

アクセストークン取得

https://api-sandbox.cloudsign.jp/token

書類の作成

https://api-sandbox.cloudsign.jp/documents

添付資料の追加

https://api-sandbox.cloudsign.jp/documents/<documentID>/files

書類情報の取得

https://api-sandbox.cloudsign.jp/documents/<documentID>/attribute

宛先の追加

https://api-sandbox.cloudsign.jp/documents/<documentID>/participants

共有先の追加

https://api-sandbox.cloudsign.jp/documents/<documentID>/reportees

書類の送信

https://api-sandbox.cloudsign.jp/documents/<documentID>

埋め込み情報の登録

https://api-sandbox.cloudsign.jp/documents/<documentID>/files/<fileID>/widgets

※複数のクライアント ID を登録したい場合は、「任意の発行者を指定」以下の「短縮コード」、「クライアント ID」を入力してください。「追加」ボタンを押すことで最大 50 個まで追加で登録することができます。

#### ▼ 「任意の発行者を指定」の設定画面

任意の発行者を指定

追加

短縮コード 短縮コードを入力してください

クライアントID IDを入力してください

削除

短縮コード 短縮コードを入力してください

クライアントID IDを入力してください

削除

短縮コード 短縮コードを入力してください

クライアントID IDを入力してください

削除

#### ▼ 設定項目

「デフォルト値」・「デフォルト値 (Sandbox)」のボタンを押下すると各 API のデフォルト値が入力されます。入力の際はボタンを押下してから編集をすることを推奨しております。

※デフォルト値に「<documentID>」が含まれていますが、電子サイン連携を行うことで取得できる値となるため、こちらの値は編集せずにご利用いただけます。

- クラウドサインの Web API クライアント ID (デフォルト値)  
クラウドサインの Web API クライアント ID を指定します。
- 任意の発行者を指定  
書類ごとにクライアント ID を切り替えて連携を行いたい場合は、本項目を設定する必要があります。  
任意の短縮コードと利用したいクラウドサインのユーザーに紐づくクライアント ID を入力して保存します。  
書類に設定した短縮コードを入力することで、対応したクライアント ID でクラウドサイン連携を行います。  
※クライアント ID (デフォルト値) を設定している場合でもこの項目は必須項目にはなりません。  
※短縮コード、クライアント ID はいずれも指定する必要があります。  
※短縮コードは重複できず、それぞれ一意となる値を指定する必要があります。
- 短縮コード  
短縮コードを指定します。入力内容は任意の値を英数字 20 文字以内で指定します。  
(例)team1
- クライアント ID  
短縮コードに紐づくクライアント ID を指定します。
- アクセストークン取得 (クライアント ID を入力した場合のみ必須項目)  
クラウドサイン WebAPI 利用に必要なアクセストークンを発行するための URL を指定します。  
(例) <https://api.cloudsign.jp/token>
- 書類の作成 (クライアント ID を入力した場合のみ必須項目)  
書類作成 Web API を利用するために必要な URL を指定します。  
(例) <https://api.cloudsign.jp/documents>
- 添付資料の追加 (クライアント ID を入力した場合のみ必須項目)  
添付資料の追加 Web API を利用するために必要な URL を指定します。  
(例) <https://api.cloudsign.jp/documents/{documentID}/files>
- 書類情報の取得 (クライアント ID を入力した場合のみ必須項目)  
書類情報の取得 Web API を利用するために必要な URL を指定します。  
(例) <https://api.cloudsign.jp/documents/{documentID}/attribute>
- 宛先の追加 (クライアント ID を入力した場合のみ必須項目)  
宛先追加 Web API を利用するために必要な URL を指定します。  
(例) <https://api.cloudsign.jp/documents/{documentID}/participants>
- 共有先の追加 (クライアント ID を入力した場合のみ必須項目)  
共有先追加 Web API を利用するために必要な URL を指定します。  
(例) <https://api.cloudsign.jp/documents/{documentID}/reportees>
- 書類の送信 (クライアント ID を入力した場合のみ必須項目)  
書類の送信 Web API を利用するために必要な URL を指定します。  
(例) <https://api.cloudsign.jp/documents/{documentID}>
- 埋め込み情報の登録 (クライアント ID を入力した場合のみ必須項目)  
埋め込み情報登録 Web API を利用するために必要な URL を指定します。  
(例) <https://api.cloudsign.jp/documents/{documentID}/files/{fileID}/widgets>

## 2.5.2 GMO サイン連携の設定

### 1. 前提条件

GMO サインのライセンスがあること。

### 2. 基本設定

- GMO サインの組織 ID
- GMO サインのシークレットキー  
上記の 2 項目を指定します。

#### ▼ 基本設定

### GMOサイン設定

GMOサインの組織ID

GMOサインのシークレットキー

#### ▼ 設定項目

- GMO サインの組織 ID  
GMO サインにアクセスするための組織 ID を指定します。
- GMO サインのシークレットキー（組織 ID を入力した場合のみ必須項目）  
GMO サインの組織 ID に対応するシークレットキーを指定します。

### 3. API エンドポイントの入力

- アクセストークン生成
- 封筒用文書登録
- 封筒署名依頼
- 管理番号取得
- 封筒情報取得
- 署名処理実行
- 文書詳細情報取得・編集

上記の 7 項目を指定します。

#### ▼ API エンドポイント設定画面

APIエンドポイント設定
デフォルト値設定

---

アクセストークン生成

封筒用文書登録

封筒署名依頼

管理番号取得

封筒情報取得

署名処理実行

文書詳細情報取得・編集

保存

▼ 設定項目

「デフォルト値設定」のボタンを押下すると、各 API のデフォルト値が入力されます。入力の際はボタンを押下してから編集をすることを推奨しております。

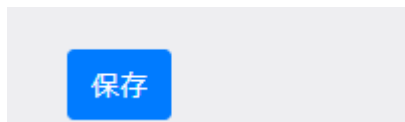
- アクセストークン生成（組織 ID を入力した場合のみ必須項目）  
アクセストークンを取得するための API エンドポイントを入力します。  
例： <https://api2.gmosign.com/agree-api/v0/api/accesstoken/generate>
- 封筒用文書登録（組織 ID を入力した場合のみ必須項目）  
封筒用文書登録 API を利用するための API エンドポイントを入力します。  
例： <https://api2.gmosign.com/agree-api/v0/api/envelope/document/regist>
- 封筒署名依頼（組織 ID を入力した場合のみ必須項目）  
封筒署名依頼 API を利用するための API エンドポイントを入力します。  
例： <https://api2.gmosign.com/agree-api/v0/api/envelope/sendRequest>
- 管理番号取得（組織 ID を入力した場合のみ必須項目）  
管理番号取得 API を利用するための API エンドポイントを入力します。  
例： <https://api2.gmosign.com/agree-api/v0/api/document/controlNumber>
- 封筒情報取得（組織 ID を入力した場合のみ必須項目）  
署名位置設定 API を利用するための API エンドポイントを入力します。  
例： <https://api2.gmosign.com/agree-api/v0/api/envelope/status>
- 署名処理実行（組織 ID を入力した場合のみ必須項目）  
署名処理実行 API を利用するための API エンドポイントを入力します。  
例： <https://api2.gmosign.com/agree-api/v0/api/envelope/sign>
- 文書詳細情報取得・編集（組織 ID を入力した場合のみ必須項目）  
文書処理実行 API を利用するための API エンドポイントを入力します。  
例： <https://api2.gmosign.com/agree-api/v0/api/document/detail>

## 2.6 設定項目の保存

---

### 2.6.1 設定項目を保存

必要項目を全て入力し、最下部にある「保存」を押下します。



「保存」を押下すると、入力内容が保存されます。

#### 1. 入力内容が正しい場合

入力内容が正しい場合はページ上部に保存完了のメッセージが出力されます。Web ページが自動的に再読み込みされ、入力した内容が反映されます。

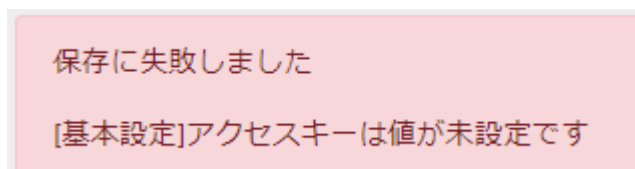
(例)



#### 2. 入力内容に不備がある場合

入力内容に不備がある場合は、ページ上部にエラーメッセージが出力されます。エラーメッセージの内容から不備がある入力項目の修正を行ってください。エラーメッセージには以下の例のような内容が表示されます。

(例)



### 2.6.2 設定項目の更新

一度、保存をした後でも入力内容を更新することができます。変更したい項目の内容を変更し、「保存」を押下することで内容が更新されます。

※入力内容に不備がある場合は、ページ上部にエラーメッセージが出力されます。不備がないように内容を変更して、「保存」を押下してください。

## ■ 改訂履歴

改版	改版内容
2023年12月21日版	初版リリース
2024年2月14日版	2.4 標準メールサーバーについての記載を追加、キャプチャの更新
2024年3月25日版	2.2.1 管理者サインインのキャプチャを更新、2.5.1 クラウドサイン連携のチームごとの値の設定内容説明追加
2024年4月30日版	2.2.3 メール設定のうち、接続確認メールとエラー通知メール送信先設定の説明の追加、キャプチャの更新
2024年5月31日版	2.5.2.GMO サインの API の項目を更新 2.4. SMTP サーバー認証時の ID とパスワードが、認証を行う場合のみ必須である説明の追加
2024年8月23日版	2.4. 電子サイン連携の基本設定 (2)XP の設定項目の入力：指定するユーザが書類の承認者となる必要がある場合の説明を追加 (3)メール設定：標準メールサーバの場合の FROM アドレスの説明を変更 2.2.6. ワークフロー連携設定：章追加 2.3.3. Webhook の設定：章追加
2024年11月12日版	2.5.1. クラウドサイン連携の設定 「チーム ID」を「短縮コード」に名称変更し、キャプチャの更新
2024年5月12日版	2.5.1.クラウドサイン連携の設定 埋め込み情報登録 API の説明を追加
2025年6月30日版	2.2.6 ワークフロー連携設定 承認スキップ発生時の制限について追記
2025年9月30日版	2.2.6 ワークフロー連携設定 特定の回付ルール・フィールドの値で連携できる設定について追記
2026年1月30日版	2.5.1 クラウドサイン連携の設定 クライアント ID の設定上限数を 10 個から 50 個に変更